

前の日の遊びの様子…

ウレタン積み木で遊び始めると、Aくんが小さな丸いソフトブロックを「ピンポーン」と言いながら持ってきました。ウレタン積み木にくっつけてインターホンにしたいようです。保育者がウレタン積み木に貼り付けると、近くにいた友達も「ピンポーン」と言いながら、インターホンに見立てたブロックを押すことを楽しんでいました。

ピンポーン



エピソード

今日もウレタン積み木を持ってきて遊び始めました。Bくんは「お家にする」と言いながらトンネルのように積み木を積んでいます。周りにいたA、C、DくんたちはBくんの積んでいる積み木に「ピンポンつける」と言いながらソフトブロックを持ってきたので保育者と一緒に貼り付けました。ソフトブロックのインターホンを押して「ピンポーン、入っていいですかー」と言うと中にいた子が「どうぞ、入っていいですよ」と答えます。Bくん「ここから入ってね」Cくん「ここに座ってご飯食べよう」とどんどんお家ができていきました。前日に遊んでいたAくんや、周りにいた友達も「ピンポーン、入っていいですか」とどんどんお家の中に入り、お家ごっこを楽しんでいました。

子どもの育ちや学び



どうぞー

みかんのお家～!

入っていいですかー

・ソフトブロックをインターホンに見立ててウレタン積み木に付けて遊ぶ。(見立てる・意欲)

・生活の中で聞いたり使ったりしている言葉の掛け合いを楽しむ。
(友達とのやりとりが楽しい・返事があることへの安心感)

・インターホンというみんなが知っている共通のものがあることで、お家ごっこのイメージがもちやすくなり、一緒に遊ぶ姿につながっている。
(友達と一緒に遊ぶ楽しさ)

保育者の思い

・ソフトブロックをインターホンに見立てて、お家ごっこに使いたい気持ちを受け止め、Aくんの思いが遊びの中で実現できるようにしたいと思いました。

・生活の中で普段から耳にしている言葉を使うことで、友達との掛け合いを楽しんでいると思いました。また、自分の発した言葉に、友達が返事を返してくれる嬉しさや安心感から、より遊びを楽しんでいると思いました。

・それまではウレタン積み木を個々で楽しんでいる姿がありましたが、「インターホン」というみんなが知っている共通のものがあることで、お家ごっこのイメージが広がり一緒に遊ぶ姿につながっている様子を見守りたいと思いました。

お家の方へ

入園から数か月がたち、少しずつ友達の存在に気付いたり受け入れたりしながら遊んでいます。友達のことを話す様子を耳を傾けてみてください。